

No. 31

1975.  
7. 26.

# 岐阜の博物館

編集  
兼  
発行

〒483 羽島郡川島町  
エーザイ工園  
内藤記念くすり資料館内  
岐阜県博物館協会  
責任者 吉田幸平  
振替 名古屋 70106



特集・自然保護と博物館

館・園紹介 No. 26

老田野鳥館

〒506 高山市上一之町 60 番地

TEL<0577>33-8702

## 飛驒に自然博物館誕生！

飛驒の野鳥を観察しつづけて60余年、酒造業を営むかわら、自然を愛した先代老田敬吉氏(1902-1972)が、生前収集し研究した資料・鳥獣の剥製250余点を中心に、翁の研究物・ツルの卵に蒔絵をほどこしてある江戸時代の香合(香料を入れた容器)、野鳥生態写真等が、飛驒高山の代表的な商家の住宅と土蔵の内部280㎡程に、みごとにケース展示されている。

Today birds, Tomorrow Men.を合言葉に、トリの生命を護ることは、ヒト自身を護ること、今日、滅び行く野鳥の姿こそは、明

日の人類の運命であり姿であることが、スナリと認識されるまでには、まだまだ多くの時間を費やさねばならない悲しい現実の中で、野鳥への正しい知識普及は急務である。本館の創設者老田正夫氏は、親ゆずりの鳥類観察家であり、かけがえのない地方文化を支える自然保護員、そして本物のナチュラルリストである。まさに飛驒地方の鳥類情報センター的役割りを果たしている。

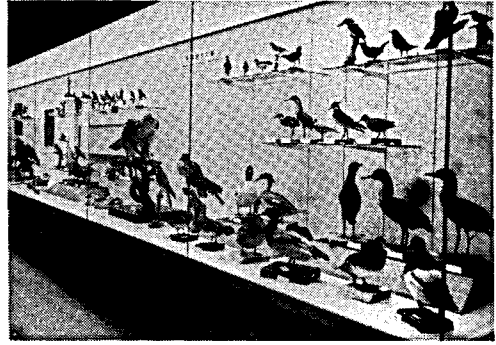
故敬吉氏は、高山市城山公園のオシドリ習性研究や保護等で多大の業績を残され、日本鳥類保護連盟や日本野鳥の会からも表彰されてい



(老田野鳥館全景)

る。この親子二代にわたる郷土の自然、ことに野鳥を中心とした自然誌研究の成果は、本館の誕生とともに、より多くの人々のものとなり、さらには受け継がれて、郷土の自然を守る大きな原動力となるにちがいない。

今まで飛驒の高山では、民俗的・工芸美術的



(館内の豊富な展示野鳥標本)

な面に片寄っていた感のあった博物館界に、この老田野鳥館の誕生は、その大きな穴を少し埋めてくれたといつてよい。今後ますます野生鳥獣の総合博物館として、さらには、飛驒一円の自然誌館園としての一層のご活躍とご発展をお祈りする。  
(文責 宮崎)

## 論壇

### 人間と自然の新しい歴史を求めて

自然保護資料室 小塩 武文

#### 自然保護の流れ

県土の80%強を山林でしめる岐阜県においても、人口の増加にともない、人間の欲望を満し秩序を保つために、ダム・道路の建設、住宅・工場・ゴルフ場等の用地の造成、森林伐採、砂利採取、残留性の高い合成物質の使用等の行為があまりにも急速に増加した。そのため、県内のいたる所で緑の自然がはがされ、青い清流が濁され、傷だらけの山河が目立つようになりはじめ、自然保護の言葉が熟語化したのは、昭和41・42年ごろであった。このころ、工場排水・農薬・合成洗剤等による水質汚染により、魚貝類および鳥類のへい死、幼虫時代を水中で自活する、トンボ・ホタル等の減少、また工場からの煤煙や自動車の廃気ガスによる大気汚染が問題になり公害防除がマスコミをにぎわした。

#### 自然保全の創造

こうした中で、新しい住民運動とよばれる自然保護運動が盛んになっていった。この運動の

推進役を担った人々は、従来の市民運動の活動家とは異色の人達であった。すなわち自然を対象として比較的孤独な調査・研究をされてきた生物学者・生態学者であった。この人達は、自然保護運動が転開されるまではあまり世論に対しての働きかけはなかったが、その研究は深く、その理論は説得力があり、その意見はある程度、旱天の慈雨のごとく政治に行政にとり入れられていった。

その結果、自然保護の名目により大規模な自然破壊の規制たとえばゴルフ場増設の規制、また工場排水排煙に対する規制、高い毒性・高い残留性を持つ化学物質の使用への規制それにホタル・ハリヨ等の増殖、ライチョウを代表とする鳥類の保護、また都市における緑化等が実施された。

しかしこれが真の自然保護であろうか。自然保護とは、動物・植物・微生物のバランスを保ちながら、これらをセットで保護することである。残された手つかずの自然を残すことである。

自然河川を原始林を少しでも多く残すことである。その他、池・湿地・原野のようないわゆる自然度の高い地域を広く保留しておくことである。そしてそこから自然の仕組み・自然の秩序を学びとり、新しい人間と自然の関係といえる自然保全の方法・進路を生みだすべきである。

#### 自然を知る調査と記録資料センターを

そのためには、より多くの生物学者・生態学者による、郷土の自然界の研究・調査が必要となるのではないか。今後の研究・調査をより適確にさせるためには、今日までの蓄積を、一ヶ所に集め、だれもが気軽に閲覧できるようにしなければならない。自然保護の運動も、失われてゆくことに抗議するだけでなく、失われてゆく自然の記録資料を少しでも拾いあげてゆくことが将来のためにぜひ必要となるのではないか。そのためには、自然科学博物館で、あるいは、大学の生物学教室などで、県下において研

究され発表された資料・文献を収集し、整理し保管し、研究者の利用に供さなければならない。現在ある博物館では、展示効果のない記録資料の収集にはあまり力を入れず、一般に展示部門に重点がおかれている。これからの自然科学博物館は一般にいわれている機能のほか、さらに自然保護の推進力にもなり、また自然資料もあわせて保存する資料館的な役割をも持つべきである。しかもその資料が、地域ごとの生物の種の記録から、量的把握がなされたものに変化するよう指導してゆくことも望まれる。

このようにして得られた情報をもとに、開発行為が計画された場合には、その計画に積極的に参加し、環境アセスメントを要求し、生物学者・生態学者の意見を十分とり入れた県土の利用がおこなわれるようにしてゆく必要があるのである。ここから人間と自然の新しい歴史が始まるのではないか。

## 社会教育と自然保護

### 生涯にわたる自然学習の場の拡充を

岐阜県博物館協会理事 小野木三郎

#### 自然保護も教育から

世界に数ある工業先進国の中で、日本は著しく自然環境と生命に対する脅威が増しており、工業化と技術化への無拘束な進展は、うわべだけの繁栄をもたらした。日本を訪れた外国の植物生態学者は、「日本こそは、物質的進歩だけからくる虚像を乗り越えて、人間らしく生き残れるかどうかの運命的実例である」とまで云いつている今日、私たち日本人は、日本固有の自然風土と、そこから生まれた精神的態度を再認識し、ひとりひとりが正しい生態的自然観・人生観を持たねばならない。

ところが、これだけ「自然」の大切さが叫ばれ、自然環境保全が福祉社会の基盤として行政に取り入れられても、現実には少しも自然は回復しないし、自然破壊はストップしない。価値観や発想の転換も観念的な唱い文句に終わり、

何も変わってはいない。それもそのはずである。いかに裁判で企業責任を明らかにしても、いかに行政サイドで努力して条例を作ってはみても、そこに住み、そこで生活している我々ひとりひとりの「心」がどれだけ変わっているといえるだろうか。便利さを追い、物質的豊かさを求め、自然を忘れた生活に満足しきった現代人ひとりひとりが「心の改革」をしない限り、「自然保護」も夢物語に終わるにちがいない。だとすると、遠く長い道のりではあっても、もはや自然を守ることも「教育」でしか救われまいといっている。

#### 忘れられた自然教育

私は、自然を正しく知り、自然界の生態的なしくみを、それぞれの年齢に合った程度で把握するための諸教育活動——学習活動が自然教育であり、その基盤の上に、いかにして「よりよい自然環境を守り、創造し、回復するか」を考

える人づくりを自然保護教育と一応区別している。いずれにしても、「自然」を知り、自然に学ぶ教育は、学校教育の中で強力に推進されるべきであるが、とりわけ、大人も子どもも含めた現代社会の緊急課題として、「社会教育」の場での自然教育および自然保護教育を見直してみたいと思う。あまりにも忘れられすぎているからである。

社会教育と一口には云っていても、「学校教育以外の組織的・継続的な教育の総体である」などととらえれば、家庭内での親子兄弟間での教育、企業体内の社員教育、同好会の学習会などありとあらゆる教育が含まれてしまうが、ここでは、文部省や地方自治体教育委員など、いわゆる教育行政体が世話をしている狭義の社会教育について考えてみよう。まず目につくのは、



各種青年団、婦人会、PTA、各種青少年団、あるいはそれらの団体を通しての事業の各種、それらの社会教育のプログラムに、自然教育の内容をみつけることは、ほとんどできないのが現実である。

#### 生涯にわたる自然学習の場を

社会教育は、学校教育の延長や補充であってはならないことは当然である。学校教育の原理、形態をも改善し乗り越えて、社会全体の中で、人間一生涯にわたっての教育の計画化、～すべての人がすべての時代に、すべての機会を得て学習を続ける—ことを目的とした教育理念が注目されている今日、現代社会の今日を救い明日を創造する基盤は、生態的価値観・人生観をもった人づくりであることを思うと、自然のしくみを知る学習の場こそ、先よりも中核として

社会教育行政は整備しなくてはいけないと思われる。たとえ狭義の社会教育とはいえ、社会科教育であってはならないし公民教育でもいけないのではないだろうか。社会教育の教育内容・プログラムには、「自然教育」および「自然保護教育」がかなりの比重を占めなくてはいけない。それなくしては、「自然環境を保全し、人間らしく生き残るための、運命的な実例を成功例」とすることもできず、まさに日本は崩れゆくほかはないだろう。「崩れ行く日本をどう救うか」は、身のまわりの自然について、常に学習し続ける私たち国民ひとりひとりであって、決して企業でも行政的な立法や指導でもないことをまず自覚しなくてはならない。

#### 青少年自然の家こそ

ところで、こうした考え方から、社会教育機



関としていろいろな施設設備が整備されつつあることは喜ばしい限りである。岐阜県立博物館内の自然分野、関ヶ原青少年自然の家、土岐少年自然家など、いずれも自然学習の場として岐阜県が行なっているものである。今後各地に整備されることを望むとともに、今一度、こうした施設の問題点を見直してみよう。

オープン以来、満員の盛況で、多くの青少年が宿泊しながら、周辺の豊かな自然を肌で体験できることは、まことにすばらしい野外活動である。残念なのは、それだけ自然学習の舞台が揃ってはいても、真にそこで、今望まれ期待されるような「自然学習」がなされているかどうかということである。県の方針としては、「宿泊施設としての維持管理はしても、活動その他の指導は引率側、先生らが行うこと」(P.8上段へ)

# 社会教育と文化センター

## ～地域社会に生きて働くために～

### 大垣市児童文化センター

当館は昭和37年5月に着工、鉄筋コンクリート三階建、建築面積588㎡、工費約1,200万円で建築されました。同年11月26日開館以来13年間、児童生徒に親しまれて今日に至りました。

運営の立場として、子供達の夢と希望をふくみますのであります。強制されない自由な雰囲気の中で、知的好奇心が充たされる場でありたい。すぐれた文化財を提供して、一般的な教養を高めるとともに、学校教育の手助けとなるものであります。(文明の利器につながる科学の紹介、解説) 趣味や同好の集いの場となり、更に、そうしたサークルの研究が深められるようでありたい(クラブの育成と発展→文化活動)と願い、これらに添えるようにと職員一同職務に専念致しております。

このため、土曜～日曜日には、理科教室、電気こども会、無線教室、図画教室の各クラブ、七宝焼の集い、映画の会を毎月、全国小中統計作品展等を毎年実施し、児童生徒の教養を高めるために役立っております。

また館内には、科学的な展示品を置き、その仕組みや原理を示している。一階では、交通産業に関するもの(乗物、燃料、電力)二階には、文化生活や科学実験に関するもの(実験器具、電気器具、計器、原子力)三階には、天文気象に関するもの(天体写真、天体模型、気象資料、鉱物)などが展示されております。

このように、児童生徒が時代に即応した知識を楽しみながら学べる場として、健全な余暇利用に役立てるとともに、直接学校教育にも寄与している。

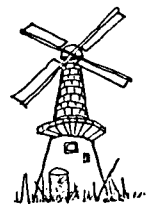
こうした基本的な考えから、当館は入場無料で、広く一般に利用され親しまれている。学校の終わる2時ごろになると、児童生徒の元気な

黄色い声が聞こえてくる。子どもたちは、肌で科学の知識を吸収していくが、一方、勢いの良い遊び盛りの子どもたちなので、館内で「おにごっこ」をしたり、好奇心で「はかり」の上で「ドンドン」やったりして、施設々備の保守も大変であります。また、単なる文字の説明だけでなく、動く模型を多く取り入れるようにしていますが、どうしても痛みが多く、その故障もひじょうに多様で、修理のできる業者を捜すのにも大変苦労しております。

子供のための施設であり、元気一杯な相手であるため、故障するのもしかたがないとは思いますが、中には「イタズラ」をする子もあり、公共の施設でありみんなのものだという考えをもち、大切に扱って欲しいと願ってばかりいます。イタズラっ子は、比較的高学年に多いように思われ、もっと公德心をもって欲しいと思います。

ところで、科学の進歩は目まぐるしく、次々と新しいものが出てきます。原理を示したものは問題ないのですが、現実に使われているものは、移り変わりが激しく、展示しても数年たつと現実にそぐわないものになってしまいます。このため、常に新しいものを展示するのは大変で、経費もたくさんかかります。またこういったものは、一般的なものではなく、特定の業者で数も少なく、こちらの思ったものを購入するというよりも、限られたものの中から良いものを選ばなければなりません。

これからも創意工夫して、未来への夢を誘うようなものを展示し、社会に生きて働く児童文化センターとして、もっと充実した施設にしたいと念願致しております。



# 博物館人の広場

※ 館園紹介しました「老田野鳥館」の老田正夫さんに電話インタビューをし、野鳥館にまつわるアレコレを伺ってみました。

郷土理解のキッカケに／

質. 開館されてまだ一年にならないのですが、この間の訪問者をみられて、一番お感じになっ  
ていただけることは？

◎ 地元の子どもさん、親子連れの方々が思いの外多いことですね。昨年9月開館で、まだ夏休みを迎えた経験はありませんので、今年の夏のようにについては何とも云えませんが、観光客の方も来られますが、地元の方がかなりいらっ  
しゃいます。

質. 地元の方々の反響はいかがでしょう。

◎ 今よく出る話は、「マナー、こんなにたくさん、こんなにいろんな種類の小鳥が、この近くに  
いるんですか」ということで、ビックリされ、驚いておられます。

質. 自然系の博物館施設の少なかった飛騨高山にあって、貴館のオープンと存在は貴重なもの  
だと頭が下がりますが、その後の地元での自然への開眼についての動向は？

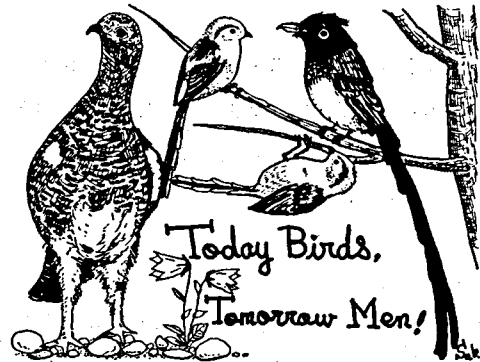
◎ こうしてささやかにでもオープンしますと、「私のところにこんな鳥が巣をかけております」「庭師が入って作業を始めているんですが、鳥が巣をかけています。この木を切ってもいい  
でしょうか」等々、いろいろな問い合わせや連絡が多く入るようになり、地元の方々が野鳥への関心を持ったりするキッカケにもなったと自負しています。鳥獣に関する情報もここへ集まって来て、まさに情報センターとしての役割を果せられたと責任も感じています。地元の方々が買われたり貰われたりしていた剥製も寄ってきつ  
つありますし……

自然に無関心な現代人

質. ところで、現代社会に課せられた大きな課

老田野鳥館々長

老田正夫氏



題「自然保護」についてお感じのことは、

◎ マナー関心がない。自然に対して無関心すぎるってこと、これを第一に感じますネエー。  
質. この無関心さこそが、日本のかけがえのない自然を失なわせる「元凶」だと思うのですが。

◎ そうですね。身近なものこそ、まず目を向けさせることを願っているのですが、この前春祭りの4月15日に、私は今年初めてモンシロチョウが飛んでいるのを見ました。こんなさ  
さやかなことでも、じつは面白い自然の出来事だと思うんですが、そんな手近な自然に、気づいていない人がじつに多いと思います。

質. そこで、どうどうめぐりで「無関心」だから気づかない、気づかないから無関心、これを打破するグッド・アイデアはないものでしょうか。

◎ むづかしいことですねー。私も学校なんかへ行ってよく話しますが、管理された花壇なんかはよくゆきとどいていても、むしろ逆に作用して子どもが近寄れないんじゃないでしょうか。花いっぱい運動も、花自身を育てることには役立っていても、「自然の中に飛び込んでいくこと」には逆作用の心配があるんじゃないでしょうか。秋には柿の実がなり、クリの実が落ち、春には春の野草が芽生え花咲き……そういう郷土の自然の移り変わりを体系づけた身近な自然が、学校の中にこそ必要だと思いますネー。

## 自然教室の開催も

質、今後の抱負や夢なんかもお聞きしたいのですが。

◎ レクチャーのできる施設も整えたいとは思っていますネー。野鳥教室を開いたり、VTRを活用して、NHKの「自然のアルバム」を教材に使ってみたりしたいと思っていますのです。

質、館内の展示は、マナー本物の自然への導入とか、自然への開眼のキッカケづくりとしての意義が高い訳ですから、録音を流けなどの演出も必要ですネー。

◎ ところが、ゴルフ場や山の売店などから、「小鳥の声を録音を流したいが」という問い合わせがよくあり相談を受けます。静かなら静かなまゝがいいのであって、その静かなところへ、自然の本物の小鳥の鳴き声が流れてくる方がいいのじゃないですか。録音を流したんでは意味ないんじゃないですかと云うんですけども、「いや、流した方がお客さんが喜ぶんです」といわれますネー!! こうした考え方は、やっぱり間違っていますネー。

質、その他、開館してから感じておられますことがありましたら。

◎ 学校の授業にも合わせて、どんどん使ってもらいたいものです。本や写真、それも小さなものでの勉強だけでなく、やっぱりここで実物に接していただくなり、実物教育を重視していただきたいと思っています。もちろん私も昔なりの標本主義に陥り、自然の生の姿を軽視したり忘れてしまっただけとはいけないことは充分考えております。それに、こうして剝製を並べて展示していることは、近頃の剝製ブームに輪をかけるんじゃないかという批判もありますし、そういう心配もあって自然資料の扱いは、ほんとうにむづかしいのですが……

質、しかし、そうしたことは、展示内容や方法面でカバーできますしネ。

◎ ハイ、ハイ、思いの外歌人の方が多く訪れて下さいますし、絵画をやってみる方々もおいでになり、いろいろスケッチされていきます

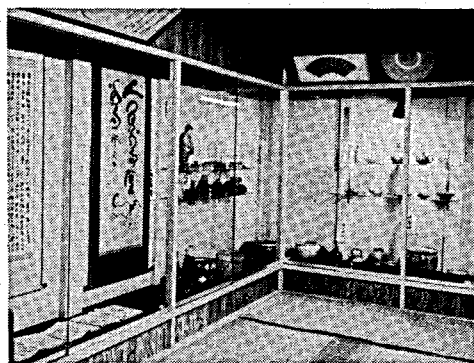
から、思わぬ多方面にも役立っていると驚いてもあります。それに、前から保管されていた資料を公開したわけですが、こうして展示公開してみると、今までは忘れられたり目の届かなかったものにも充分目が届いて、剝製資料の安全保管管理の面からも、むしろよかったと思っています。死蔵させていても何にもなりませんしネ。質、ほんとうにいろいろとありがとうございました。最後に、郷土高山の自然保護について、何かひとこと。

◎ 高山は、まだまだ身近に自然がありますし、それが魅力だと思います。しかし、先ほど録音のことでも出ましたが、ゴルフ場も、近くにゴルフ場のないことを高山市の誇りとしたと思ってはいるんですが、近くに普通の山々がある。樹木がある。それこそが高山市の最大の魅力だと思っています。身近な自然に、もう一度、ひとりひとりが目を向けること、それが着実な第一歩だと思っています。

※ 受話器から流れてくる老田さんの話し振りは、ひとつひとつ控え目で温和ではありましたが、すっかり自然を忘れてしまった数多くの現代人の洪水、この時代の流れを的確に把握して、「身近な自然への開眼」を控え目に訴えられました。まさに、「剝製標本の功罪」を最もよくわかきまえておられる博物館人そのものであった。

## お詫び

前号1頁の上段右の写真(考古館内の展示室)が手違いにより逆像となっています。ここにお詫びして訂正させていただきます。(扱者)



(P.4より) としている。ところが、自然を見る目を失い、自然を忘れ、時代の流れを変えるべき生態的価値観を持たないのは、世の人々と同じように先生方も同じことである。ちなみに、どれだけ野外での自然観察学習が指導できるのか、その面での実態調査、能力調査を行ってみるといい。教科書に登場してくる植物だけを例にしてみてもいい。さし絵等で名前は知っていても、いざ野外の現場で生きた実物を相手にしたら、その名まえすら云えないのが実態ではないだろうか。

はるばると自然豊かな野外へやってはきても、ゲームをし、キャンプファイヤーをし、歌をうたりだけでは、都会に居ると変わらないし、自然観察指導こそがまず第一に充実されなくてはならない。そのためには、青少年自然の家自体が、野外活動カリキュラムの中に、自然観察の内容を確立することが先決であるし、学校教師自身の研修内容に、「自然教育・自然保護教育」

を強力にとり入れる必要がある。

#### 自然学習室の充実をこそ

さらに、付帯施設として、運動場や遊園地的広場(ブランコ、スベリ台等付)などが設けられがちであるが、ここでも忘れられがちなのは自然の学習施設である。四季折々の自然風物をスライドや映画で上映できる設備をもった、野外自然観察のための学習室、そこには、基本的な図書は勿論、関係学習資料は利用されやすく保管されている必要がある。そして何よりも大切なことは、施設があることだけではなく、施設に宿泊した青少年と、その周囲の豊かな自然との対話を助け結びつける人がいること、つまり、管理所属員だけでなく「自然教育教師」をこそ数多く常駐させることではないだろうか。訪れた青少年たちと、周辺の自然とが有機的に結びついて、ほんものの「自然を学び知る」活動をする姿こそが「青少年自然の家」であって、建物だけではないことをまず知るべきである。

## ≡ 県内 ニュース ≡

### 高山に飛騨工匠館オープン

高山市大新町にある福田夕咲(詩人・作家)の生家を、木工業川原吉助氏が借り受けて四月五日より開館。230㎡の主家の外に土蔵がある。夕咲関係の文献や遺品、春慶塗や一位一刀彫の製作実演など興味つきないものがある。

### 白山長滝神社 宝物収蔵庫開館

長い間開館が待たれていた白山長滝神社の宝物収蔵庫「白山瀧宝殿」が、七月五日オープン。5～6日と記念無料公開を行った。白山信仰にまつわる数々の文化財を、永久保存するために建設されたもので、鉄筋コンクリート、平屋建、二百十平方メートル。国、県指示の重要文化財等多数展示。拝観料は200円。

### 関ヶ原町に軍事資料館

不破郡関ヶ原町に「防人(さきもり)センター」―「忍者の里」が誕生、太平洋戦争時の弾薬庫をつなぎ合わせて造られたもので、明治・大正・昭和にわたる軍服、砲弾、銃、写真資料などが展示された軍事資料館で、忍者の衣装、手裏剣、かすがいの道具等を展示した「忍者の里」も同時にオープン、関ヶ原国際スケートセンターの経営によるもので、「二度と戦争を起さぬよう戦争を正しく知ってもらうため」の資料収集と公開。入場は両施設共通で大人300円、小人200円。

### 編集後記

◎国際博物館会議が、いかなる博物館といえども、その地域社会の環境問題を展示に取り入れることを宣言してから久しくなります。本号は、その指針にと編集しました。どんどん投稿下さい。(Sab.)